

作・絵：おざき

X(旧Twitter)でふりかえる 高尾山ニュース!

高尾ビジターセンターのX(旧Twitter)・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
2025年4月～7月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

高尾ビジターセンター【公式】

希少なランも咲く [#高尾山](#)。
しかし、先日ササバギンランの花と葉が折られていました。
毎年花を楽しみに登る方がいる一方で、
盗掘や花を折るなどの心無い行動も起きています。
大勢の目で高尾山の植物を守っていきましょう。

[#高尾ビジターセンター](#) [#拡散希望](#)
[#盗掘](#) [#ササバギンラン](#)



残念なことに、ササバギンランだけではなく他の植物なども元あった場所から無くなっていることがあります。高尾山の自然を守っていくためにも植物にやさしい自然観察を心がけましょう。

解説員 いらむ vol.42

脱皮、新たな自分へ：～

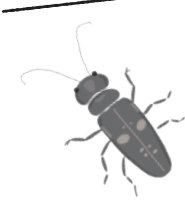
今年もいよいよ夏本番といった暑さになってきました。この時期になると高尾山内で目撃数が増える生き物の1つがヘビです。ヘビが大好きな私は、登山道沿いでのようにと地を這うアオダイショウやヒバカリを見つけると、嬉しくて思わず笑みがこぼれてしまいます。今回のコラムはそんなヘビの「脱皮」に焦点を当てます。ヘビは成長とともに脱皮をして古くなった鱗を脱ぎ捨てることで、清潔な状態を維持します。ヘビにはまぶたが無いので、脱皮をする際は目の表面にある透明な膜(スベクター)ごと脱いで更新します。ヘビ以外にも、トカゲやカエル、カニやカマキリ等といった様々な生き物が脱皮を行います。生き物たちにとっては命にも関わる一大イベントで、脱皮に失敗してそのまま力尽きてしまうこともあります。もし山内で脱皮をしている最中の生き物と出会っても、捕まえたりはせずに静かに見守ってあげてくださいね。汗っかきな私は夏場の通勤で高尾山に登っていると、気付いた時にはすでに服がビショビショ…。気分をスッキリさせるため、開館前に「脱皮」をして新しい服に着替えます。皆さんも高尾山の山頂で濡れた服を着替えたいけど、替えを忘れた…ということはありませんか？そんな方に朗報です！高尾ビジターセンターではオリジナルTシャツを好評販売中。読者の方もこの夏ぜひ脱皮をして、沢山の生き物が描かれた素敵なデザインの新Tシャツを着こなしてみませんか？

〈解説員 なかの〉

高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。


 vol.80 季刊
 2025年夏号

高尾山のカミキリムシ

高尾山には日本に生息する約800種類のうち、約180種類のカミキリムシがすんでいます。この多さは、高尾山に多様な植物があることと関係があります。また、高尾山の環境が好きなカミキリムシや、近年の高尾山で起きている自然の変化によって数が増えているカミキリムシ事情などをご紹介します。



この他にも、常緑樹が生育する比較的暖かいところが好きなタテジマカミキリ(食べる植物: カクレミノ、ヤツデ)や、好きなものを食べる、ゴマダラカミキリ(食べる植物: ミカン科、クヌギ、コナラなど)がいます。

高尾山の麓で交差する
人・物・想い。

東京都の観光地としてにぎわう高尾山。現代では毎日のように老若男女、多国籍のハイカーが高尾山頂を目指します。しかし、「高尾山登山」が目的として脚光を浴びるようになったのは比較的最近のことでした。

今では観光地や登山を目的として親しまれている高尾山ですが、かつては人々の暮らしをつなぐ「道の山」でもありました。

高尾山周辺は江戸と甲州を結ぶ「甲州街道」(現：旧甲州街道)が通っており、甲州からは果物や鉱物、江戸からは鉄製器などの加工品が流通し、それを運ぶ人々の往来が盛んでした。中でも高尾山の西に位置する小仏峠は甲州街道の難所として知られ、高尾山麓に位置する小原宿、小仏宿、駒木野宿は峠越えの準備や休憩をとる宿場町として賑わいました。

これらの宿場町には旅籠(はたご)や茶屋などが立ち並び、今でも人々が行き交ったことを物語る石仏や遺構が数多く残されています。例えば駒木野バス停近くには、様々なご利益をもたらすとされている馬頭観音(ばとうかんのん)の石仏が残されています。駒木野宿のように旅人が多く通る場所においては、交通安全祈願などを目的に設置されたそうです。蛇滝口バス停周辺には「ふじや新兵衛蛇滝旅籠」という明治時代の宿泊施設の建物が現存しています。その隣には古い水場も残っており、甲州街道を通る旅人や牛馬の喉の渇きを潤していた様子が思い浮かびます。

他にも、高尾山は江戸時代に盛行した富士登拝のための「前行(ぜんぎょう)」の場として利用されていました。ここで紹介する「前行」とは、富士山に登る前に心身を清めるための修行のことで、当

時の参拝者の八王子(駒木野間)での日記では「此間二高尾山何れも参詣」(訳：この期間(富士登拝中)に高尾山にも参詣した。)と記されています。神奈川県側の高尾山にある小原宿では、富士山参拝客が途中高尾山に立ち寄るため宿泊した記録も残っており、高尾山麓は物流を担う人や参拝者、それを迎え入れる宿場町の人々によって賑わっていたことがうかがえます。

高尾山麓にあった宿場町は、交通網の発展により宿場町としての機能は縮小していきました。しかし、今や登山者数世界一の山の入り口として、今日も高尾山麓は活気であふれています。高尾山の麓を経て物や文化が行き交い、人と人がつながっていく。その姿は今も昔も変わらない光景だったのです。

〈解説員 おかだ〉



↑小原宿 本陣 (神奈川県相模原市)

ブナに暮らすカミキリムシ

高尾山には涼しいところが好きなブナが生育しています。これは今よりも地球の気温が低かったころ(江戸時代から)の生き残りで、低い山ではとても珍しいことです。そのため高尾山は、低山ながらブナを食べるカミキリムシがすんでいる珍しい山なのです。



ブナ
(見られる登山道：1,4号路)



ヨコヤマヒゲナガカミキリ
出現時期：7～9月
幼虫：ブナやイヌブナの生木
成虫：ブナやイヌブナの生木



ヒゲナガゴマフカミキリ
出現時期：6～9月
幼虫：ブナなどの広葉樹の腐朽した木
成虫：ブナ科の樹皮

ナラ枯れで増えたカミキリムシ

近年、全国的にクヌギやシラカシなどのブナ科の植物がたくさん枯れたり、弱ったりしています(ナラ枯れ)。これはブナ科の植物に穴を開けて木の中に入るカシノナガキクイムシが関係しています。これにより、弱ったブナ科の植物や、穴から出た樹液が好きなカミキリムシが増えました。



アカアシオオアオカミキリ
出現時期：7～8月
幼虫：クヌギの生木
成虫：クヌギなどの樹液



ルリボシカミキリ
出現時期：6～8月
幼虫：ブナやクヌギ、シラカバ
カエデ類の腐朽した木
成虫：広葉樹の樹液や花



ナラ枯れにより枯れたカシワ(写真中央)

まとめ



左：男坂(南側) 右：女坂(北側)

高尾山は、南側に一年中葉がしげっている常緑樹、北側には秋になると葉を落とす落葉樹が見られます。他に草地もあるため、それぞれの植物を好む多様なカミキリムシが生息しています。中でも、ブナを食べるカミキリムシが見られることは珍しく、高尾山の豊かな昆虫相を象徴しています。また、ナラ枯れによる環境の変化にもいち早く反応して数を増やしているところもカミキリムシのたくましさを感じます。本号をきっかけに高尾山のカミキリムシに興味を持ち、高尾山の森に出かけてくれたらうれしいです。

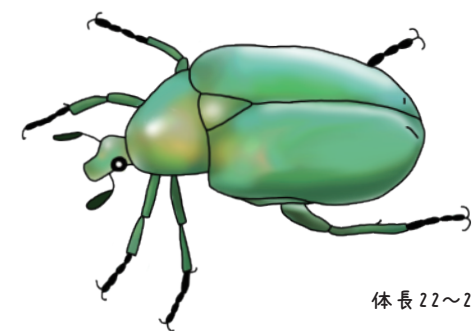
〈解説員 いしかわ〉

見られる時期：7月～8月頃
見られる場所：山頂周辺で樹液が出て
いるコナラ、クヌギなどの木

〈解説員 かわたま〉

茶色や黒などのくすんだ色をしたカナブンもいますが、アオカナブンはエメラルドグリーン！角度を変えるとオパールのように黄色っぽくもきらめきます。初めて見た時は「こんなに綺麗な虫がいるのか！」と驚きました。虫が苦手な方にこそ知ってほしい昆虫です。

金属光沢でキラキラ！



体長22～27mm

アオカナブン

ひとときを輝くエメラルドグリーン

解説員の



vol.38